

(理) 科における令和6年度授業改善推進プランの検証

<p>取り組みにおける成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1 学年：シュミレーターなど ICT を活用して、実際に実験が難しい事象などを体験的に学習することで主体的に学ぶ意欲や思考・判断・表現の力に結び付けたい。 ○2 学年：知識・技能については、スモールステップを活用した授業によって伸長されつつあるが、單元ごとの内容などで学習したことが定着していない部分がある。実験・観察を通じた活動や意見交換を通して、思考力は身に着きつつある。 ○3 学年：タブレットを活用した学習が、定着化しており、さまざまな資料を提示することで、興味関心を高め、知識の定着へと結びついてきている。 しかし、一方で前年度の内容の定着が不十分なので、タブレットを活用した家庭学習などで復習し、定着化させる。

(理) 科における調査結果の分析

<p>内容別結果の分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1 学年：教科の正答率は目標値に対し、0.2 ポイント上回った。特に領域では生命・地球分野で目標値に対し 5.6 ポイント上回り、基礎・活用では活用で 2.2 ポイント下回っている。 ○2 学年：教科の正答率は目標値に対し 8.5 ポイント下回った。観点別にみると知識技能が 8.7 ポイント下回っており、知識・技能に課題が見られる。 ○3 学年：教科の正答率は目標値に対し、10.1 ポイント下回った。内容別ではすべての項目で目標値を下回ってしまっているため、特に2年生の内容の見直しが必要である。植物・気象では区の平均を上回っている。化学変化において、記述問題に課題がある。
<p>観点別結果の分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1 学年：知識・技能では 4.9 ポイント下回り、思考・判断・表現では、7.6 ポイント上回っている。 ○2 学年：すべての観点で目標値を下回っている。目標値に対して特に正答率が低い分野は水溶液の単元であり、24.4 ポイント下回っている。 ○3 学年：すべての観点で目標値を下回っているが、知識、技能において 11.9 ポイント差がある。思考・判断の差の方が小さいので、知識不足を補っているとみられる。知識を補うことで改善が期待できる。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

<ul style="list-style-type: none"> ○1 学年：内容別では基礎に特に課題がある。基礎を徹底しつつも、活用力や応用力を伸ばしていく必要があると考えられる。 ○2 学年：單元ごとの基礎固めを通じた知識・技能の習得、思考・判断・表現を伸ばすための活用力や応用力の伸長。 ○3 学年：基本的な知識・技能の定着。

(理) 科の授業改善策

<ul style="list-style-type: none"> ○1 学年：スモールステップで小テストなどの機会を多く作りながら、学習習慣の確立をはかる。実験や観察を通して、予想や結果の考察をタブレットも用いながら共有、ディスカッションする機会を多く持ち、活用力などの科学的思考を養う。 ○2 学年：デジタル教材も活用しつつ、学習習慣の確立や課題への取り組みを促し、知識・技能を習得できるようにする。実験・観察を通じた活動から、結果について考え、様々な意見に触れる機会を増やすことで、科学的思考力を伸ばす。 ○3 学年：基本的な知識・技能の不足が見られるため、学習量、演習量の確保をはかる。
